漢魏洛陽城

－北魏宮城西南隅の調査成果－

1　はじめに

2007年度より５ヵ年計画で、漢魏洛陽城の共同発掘調査を実施してきた。調査地は２号門（２号建築遺構）・３号門（３号建築遺構）・宮城西南隅（５号建築遺構）である。2011年度はその最終年度であった。これまでの発掘成果については概報の形で発表している。

・城倉正祥「漢魏洛陽城・北魏宮城２号門の発掘調査」『紀要2009』
・中国社会科学院考古研究所・奈良文化財研究所聯合考古隊「河南洛陽市漢魏故城新発現北魏宮城二号建築遺址」『考古』2009年第５期
・城倉正祥「漢魏洛陽城・北魏宮城３号建築遺構の発掘調査」『紀要2010』
・中国社会科学院考古研究所ほか「河南洛陽市漢魏故城新発現北魏宮城三号建築遺址」『考古』2010年第６期
・城倉正祥「漢魏洛陽城 北魏宮城西南隅の発掘調査」『紀要2011』
・中国社会科学院考古研究所ほか「河南洛陽市漢魏故城発現北魏宮城五号建築遺址」『考古』2012年第１期

2012年度には国際講演会を開催し、洛陽城における共同調査の成果報告もおこなった。以下では２ヵ年の成果の概要について報告する。

2　宮城西南隅の調査

北魏宮城の西南隅の部分を５号建築遺構と呼称する（図１）。2010年10月～12月と2011年３月～５月に調査を実施した。発掘調査面積の総計は1964㎡である。調査区は南北60×東西30mの本調査区と宮城西南隅の北約80mのところに城壁と直交するよう設定した70×４mの調査区である。2010年度は難波洋三、城倉正祥（現早稲田大学）、芝康次郎、今井晃樹、栗山雅夫、2011年度は今井、栗山が調査に参加した。

城　壁　南城壁は掘込地業部分のみ残存し、幅は４～６mである。城内は削平されていたが、城外には当時の地面が残存し南に向かってゆるやかに傾斜している。

西城壁の断割調査によると、上層には北周時代の城壁があり、幅は２～４mである。下層には北魏時代の城壁があり壁体の幅は６m、掘込地業の幅は８m、地業の深さは２mほどである（図70）。地業は漢魏時代の水路の堆積層を掘り込んでいる。城外には北魏・北周両時代の地面が残存し、外に向かって傾斜している。

宮城西南角の建物基壇は平面Ｌ字形を呈する。地業は深さ3.5mにも達し、平面形は城壁よりも幅が広い。北魏時代の基壇は南北９m、東西14.5mだが、北周時代には南北を16mに拡張する。

西城壁の断割調査では魏晋時代の城壁を確認した。城壁は北魏の城壁の東２mに位置する。掘込地業の幅は８mあり、城壁外側には磚積外装の抜取溝を検出した。城壁の西側（城外）には幅30mほどの大型水路があり、水は北から南へと流れていた。

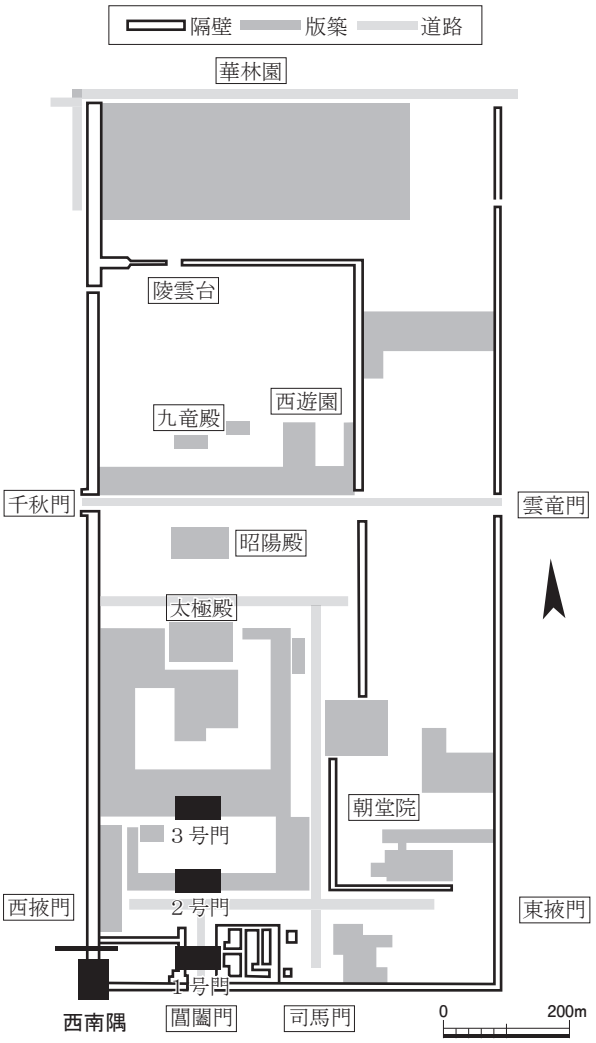

図69　北魏宮城の構造と調査地

給排水施設　磚組の貯水池は長方形を呈し、南北は9.3m、東西は5.5m以上、深さは1.4mある。壁面は磚積みで池底の土は非常に固い。４基の給排水溝もすべて磚組であった。溝１、溝２は城内を南北に走り、水は北へ流れる。溝の外幅は1.5m、内幅は0.5mである。

溝３は貯水池の西北に位置し、平面Ｔ字形を呈する。南北方向は6.5m、東西方向は18m分を検出し、西城壁下を貫通し溝４と連結する。城壁下の暗渠部分のアーチ天井は崩落しているが、磚積壁は高さ1.9mも残存している（図71）。溝の内幅は60㎝で、底部は切石敷きである。溝４は西城壁の西（城外）７mのところを城壁と並行し、水は南へ流れる。溝の外幅は3.8m、溝底は磚敷き、壁は磚積み、天井はアーチ状であった。溝の内幅は1.4m、天井までの高さは1.5mである。溝３、４は一連で、北魏時代の城壁と同時期の遺構である。

北周時代以降　城内では南北に並ぶ竈跡を５基検出した。竈は東西が3.6m、南北が2.3mの円形を呈し、壁は磚積みで、燃焼室の床面は西から東へと傾斜する。焚き口が東、煙道が西にある。

西城壁外には住居址を数棟検出した。磚積みの壁の底部が残存するのみだが、南北30m、東西15mの範囲に展開している。北斉時代の「常平五銖」と北周時代の「五行大布」の緡銭が出土した。

３　2012年度の活動

2012年度は奈良文化財研究所創立60周年にあたり、2012年10月20日に「日中韓 古代都城文化の潮流 奈文研60年 都城の発掘と国際共同研究」と題する国際講演会を開催した。５ヵ年におよぶ洛陽城の共同研究の成果と総括については、中国社会科学院考古研究所の銭国祥研究員が報告した。

４　おわりに

今回の調査では、宮城の西城壁、南城壁および西南角の建物基壇の位置と規模をあきらかにした。また、魏晋時代にさかのぼる城壁を確認したことは、洛陽城の形成過程を知る上で重要な資料となる。今後は、洛陽城北魏宮城の発掘調査報告の作成にむけて遺物の整理作業を実施するとともに、遺構、遺物の調査研究を継続していく予定である。

（今井晃樹）

図70　西城壁断面図の作成

図71　溝３の磚積構造